|  |  |
| --- | --- |
| 申込受付番号（エントリー後付与される番号を記入してください） | 3511-0367-0272 |

**平成２９年度社会福祉振興助成事業要望書（添付資料）**

**１．団体概況**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 法人格 | 特定非営利活動法人 | 団体名 | YCスタジオ |
| 設立年月日（和暦） | 平成16年3月3日 |
| 活動をはじめた経緯(団体の沿革) | 不登校の親と子どもの支援から、様々な困難を抱える若者の支援へ①1991年　不登校の親の会「松江不登校を考える会（カタクリの会）」を設立息子2人が小学生の時、転校をきっかけに不登校に。同じ不登校の子を持つ親同士で親の会を設立。以後10年間全国ネットにも参加し不登校の相談にあたる。②1992年　子どもの居場所「フリーダス」を開設それぞれの経験を寄せ合いながら、不登校の子ども中心の自由な居場所と子どもの主体性を育む学びの場を実践。ソウル市のハジャセンター（オルタナティブ教育センター）等と交流。③2004年　NPO法人YCスタジオ（Youth　Culture　Studio）を設立不登校や高校中退のため学齢期を過ぎても行き場のない10代後半から30代の若者に、安心していられる居場所と主体的な学びと仕事体験の場を提供するNPO法人を設立。今日まで、松江市や島根県の各関係機関と連携しながら、いわゆるニート、ひきこもり、問題行動、発達・精神障がいと呼ばれる様々な困難を抱える若者の支援にあたる。 |
| 直近3年間の主な活動実績（前身団体含む） | 平成26年度①文部科学省児童生徒課委託「いじめ対策等生徒指導推進事業」を実施。②島根県青少年家庭課より助成を受け、「民間団体による子ども・若者支援促進事業」を実施。③島根県地域福祉課より助成を受け、「ＮＰＯ等民間支援団体が行う生活困窮者等支援事業」を実施。④「松江市若者支援対策事業」を実施。平成27年度①文部科学省児童生徒課委託「いじめ対策等生徒指導推進事業」を実施。②「松江市若者支援対策事業」を実施。③独立行政法人福祉医療機構より社会福祉振興助成事業の助成を受け、「農を食と職へ　シェアキッチン事業」を実施。平成28年度①「松江市若者支援対策事業」を実施。②独立行政法人福祉医療機構より社会福祉振興助成事業の助成を受け、「ITで繋げる食と職　シェアキッチン事業」を実施。③しまね社会貢献基金活動支援事業「困難を抱える若者の楽しい居場所づくり事業～表現活動・体験工房を中心に～」を実施。④子供の未来応援基金「子ども若者の居場所連携・交流事業“アートでコラボ”」を実施。 |
| 上記のうち、要望事業にかかる主な実績 | ※上記にかかる助成金・補助金・企業からの協賛金等があれば分かるよう記載してください。困難を抱える若者のための農と食とITによるシェアキッチン　就労支援事業（独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業　平成27・28年）困難を有する若者の（農と食による）多様な中間就労創出事業（島根県　民間団体による子ども・若者支援促進事業　平成26年） |
| 介護保険法・障害者総合支援法の指定事業者(いずれかに○を入れてください) |  | 該当有 | 〇 | 該当無 |
| 職員・ｽﾀｯﾌ | ８人（うち有給　７人） | ボランティア | １０　人 |
| 会　　　員 | 個人会員 | 　３１人 | 団体会員 | １団体 |
| 公職該当 | 下記に定義する公職従事者に該当するか(いずれかに○を入れてください) |  | 該当有 | 〇 | 該当無 |
| ・役職員の中に、国、地方公共団体又は独立行政法人等において、現在管理職職員又は役員である者、あるいは離職後２年を経過していない者（※管理職職員とは国家公務員法に規定されている管理職職員のことをいう）がいる※大学を含む教育機関の教員、医療機関及び社会福祉施設などの医師、看護師、社会福祉士等の技術職、専門職は除きます |
| 代表者以外のその他の役員 | 役職名 | 氏　　名 | 年齢 | 役員報酬の有無 | 団体以外の職業（勤務先名） |
| 理　事 | 山本　和美 | 69 | 無 | 会社員（【株】野原熱錬工作所) |
| 理　事 | 蘆原　有理 | 39 | 無 | 会社員（【株】丸高工業 ） |
| 理　事 | 吾郷　雄二 | 60 | 無 | 無職（ 　　　） |
| 理　事 | 高山　幸子 | 59 | 無 | 無職（ 　　　 ） |
|  |  |  |  | （ 　　　 ） |
| 監　事 | 蘆原　正文 | 67 | 無 | 無職（ 　　　 ） |
| 監　事 |  |  |  | （ 　　　 ） |

**２．代表者略歴**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 役　職　名 | 理　事　長 | 生　年　月　日（和暦） | 役員報酬の有無 |
| 代　表　者　氏　名 | （フリガナ）キムラ　エツコ　 | 昭和23年11月3日 | 無 |
| 木村悦子 |
| 住　　所 | 〒６９０－０８４４　松江市東茶町12番地 |
| 電 話 番 号 | ０８５２－２３－６２８７ |
| 職業、勤務先(応募団体以外) | 　無 |
| 年（和暦） | 月 | 主な職歴・福祉活動歴や他に代表を務める団体等 |
| 平成3年 | ９月 | 松江不登校を考える会（カタクリの会）世話人代表　 |
| 平成4年 | 4月 | 　フリーダス（不登校の子どもの居場所）スタッフ代表　 |
| 平成6年～14年 | 4月 | （株）東京アカデミー松江校　非常勤講師 |
| 平成8年～ | 9月 | 子どもの人権オンブズパーソン　　代表　就任 |
| 平成14年～17年 | 11月～10月 | 　日本児童青年精神医学会　理事　 |
| 平成16年～ | 3月～ | 　特定非営利活動法人YCスタジオ設立　理事長　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| 平成18年～ | 4月～ | 　音楽＆ものづくりスタジオ　実行委員 |
| 平成24年～ | 4月～ | 　松江市男女共同参画ネットワーク　実行委員 |
| 平成24年～ | 10月～ | 　松江NPOネットワーク　監事 |
| 平成25年～ | 4月～ | 　松江市青少年支援連絡会　委員 |
| 平成26年 | 10月 | （独）国立青少年教育振興機構「日独青少年指導者セミナー」ドイツ派遣団員 |
| 平成27年～ | 11月～ | 　松江家庭裁判所委員会　委員 |
| 平成28年～ | ４月～ | 　島根県いじめ問題対策連絡協議会　委員 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 担当者連絡先 | 氏 名 | 電 話 番 号 |
| 木　村　悦　子 | ０９０－３６３９－１８６２ |

**３．現状と課題**

|  |  |
| --- | --- |
| 助成事業の背景にある現状と課題 | 「ありのままでOKからもう一つの生き方へ」をキャッチコピーに、当法人では、様々な困難を重ねて抱え、制度の狭間に置かれ孤立している（主に）松江市在住の　10代後半から30代の若者に、①安心していられる居場所を提供し　②工房活動で自信と希望を取り戻し　③自分なりの生き方を見つけるところまでを応援する　ことを目的に、相談（個人相談・親の会）、居場所、各種工房・学習教室、中間就労・就労支援、当事者研究会、講演・学習会、宿泊・交流活動等の多様な支援事業を行ってきた。特に、平成27・２８年度は、WAM助成事業を通じて、農と食とITにより、地域のＮＰＯ・市民団体、中小企業、行政機関等と連携して「生きるためのプロジェクト、働くためのプロジェクト、分かち合いのためのプロジェクト」を実施している。この間、なんらかの形で次々にYCスタジオを卒業し自立していった若者がいる反面、もともと複合的で厳しい困難を長期間抱えていたケース、さらに新たな困難に直面したケースなどは、数年の支援・関わりでは、自立への道筋は見えてこない。また、地域についても、この１年間で過疎高齢化が一気に進み、県庁所在地の中心でありながら商店街の体をなさないほど更地が増え、人通りもまばらになった。平成29年度においては、更なる地域連携を深め、グレーゾーンに置かれた彼らの自立に向けて、農と食にアートを加える等、仕事体験・中間就労の基盤となる事業を見直し、2年間実施した「生きるためのプロジェクト、働くためのプロジェクト、分かち合いのためのプロジェクト」を更に進化・継続させていく必要がある。 |

**４．事業計画**

|  |  |
| --- | --- |
| 事業の概要 | ■助成事業に応募する目的や事業の概要について簡単に記載してください |
| 「制度の狭間にあって様々な困難を抱えて孤立し、生きていくこと・働くことに不安を感じている若者に対し、農と食とアートを通じて、彼らの生活自律と就労を支援し、また地域との交流・助け合うこと」を目的に、「島根県松江市を中心に、ＮＰＯ・市民団体、中小企業、農家・漁家、行政機関等と連携を深め、農と食とアートによる　生きるためのプロジェクト、働くためのプロジェクト、分かち合いのためのプロジェクト」を実施する事業 |
| ■平成２８年度ＷＡＭ助成事業を実施し、連続して要望する団体については、平成２８年度事業の実施状況（目標の達成状況や活動の中で見えてきた新たな課題等）について簡単に記載してください（平成28年度にＷＡＭ助成を受けていない場合は「なし」と記載してください） |
| 平成28年度WAM助成事業、「ITで繋げる食と職　シェアキッチン事業」において、①「生きるためのプロジェクト」②「働くためのプロジェクト」③「ITによる発信力強化と助け合い」を実施。目標の達成状況（1月現在）　①食の自律について、ほぼ達成。　②キッチン惣での仕事体験・中間就労については60％、企業への橋渡しについては、協力企業数はほぼ達成。参加者数は30％。　③ITによる発信力強化については、ほぼ達成の見込み、フードドライブは、ほぼ達成。見えてきた新たな課題　②について　地域の商店街の過疎化が急激に進み、お惣菜事業自体の運営が厳しく、仕事体験参加者への仕事の切り出しやサポートが不十分だった。入客数・売上が思うように伸びず、参加者に働く喜びを十分伝えることができなかった。次年度には、地域の実情に合わせ、お惣菜事業を転換していく必要がある。協力企業は増えたが、若者が参加するための仕組みが不十分であり、経営者団体と共に就労困難な若者への支援方法の勉強会を重ねていく必要がある。 |
| ■応募事業の位置づけ（該当するものに○を入れてください，複数選択可） |
|  | 新たな取り組み | 〇 | 既存事業の充実 | 〇 | 取り組みの普及 |
|  | 対象者や分野等を横断する取り組み（どのような横断を行うのか、他の説明項目で分かるようにしてください） |
|  | 上記以外の取り組み（どのような位置づけなのか、他の説明項目で分かるようにしてください） |
| 「３．現状と課題」を踏まえ、事業を実施することにより期待される成果 | 事業実施により期待される成果①「生きるためのプロジェクト」：農と食とアートによる生活の自律自然の中での農作業体験で心身をリフレッシュし、生へのエネルギーを回復する。無農薬で育てた採れたての野菜で献立を考え料理の基礎を養う。アートによる自己表現活動で、自己肯定へ向かう。②「働くためのプロジェクト」：農と食とアートから職へ繋ぐ農作業、こだわり市、・惣菜の製造販売により、仕事体験から中間就労に進む。手作り雑貨や絵画（アニメ原画等）・音楽（CD）を販売することにより、収入を得る。経営者団体（中小企業家同友会）と緊密な関係が出来て、就労困難者についての勉強会や見学会、企業での体験・訓練・雇用に繋がる。③「分ち合いのためのプロジェクト」：地域との交流・助け合いお惣菜・お弁当の余りを食に困っている人にお裾分け。→食の安心（フードドライブ）近所の高齢者子ども等との交流。→見守り、助け合い。　（サロン）事業の実施目標（数値）１共生農業　　a）農業活動　　　参加者目標人数　10人　　心身の回復者人数　8人b）こだわり市　　参加者目標人数　10人　　働く意欲が出た者　8人２キッチン惣　事業a）食生活の自律　参加者目標人数　15人　食の自律ができるようになった者　10人　　b）お弁当・お惣菜の製造販売　　参加者目標人数　２０人　各段階へのステップアップ者数　15人　ｃ）フードドライブ　　　生活困窮一時保護者　1～2食/日　年間200～300食　　　　食に窮する子ども若者　3～5食/日　年間600～900食　　３アートと交流事業　　a）アート工房　　参加者目標人数　１５人　　意欲の出た者　　１５人　　b)イートインギャラリー　　出店者目標人数　１０人　　Café参加目標人数　３人　　ｃ）交流サロン　地域の方参加目標人数　８人　　若者参加目標人数　１０人４ブリッジング事業　　　　協力企業の開拓数　　目標２0社　　　　　　　　（その内企業見学・実習ができた企業数　８社、　参加人数５人）　　　　就労支援機関への紹介　　目標　５人目標達成による効果と確認方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 期待される効果 | 効果の確認方法 |
| ① | 「生きるためのプロジェクト」農と食による生活の自律アート・芸術表現活動による自己肯定生きるエネルギーを回復し、基本の調理技術を身につける。 | 日々の本人の様子を見る。参加者アンケートによる感想。保護者に家庭での様子を聞く。 |
| ② | 「働くためのプロジェクト」農と食とアートから職へ繋ぐ働くことに意欲を持ち、キッチン惣で仕事見学から体験、中間就労から外部雇用に向かう。イートインギャラリーでの作品の展示販売が収入につながる。 | 料理教室やメニュー研究会、アート工房への参加者アンケート。仕事中の様子を見る。見学・体験後に、外部企業に聞き取り。お客さんの作品に対する評価、売れ行き。 |
| ③ | 「分かち合いのためのプロジェクト」その日の食に窮した人に余ったお惣菜を提供することができる。（フードドライブ）地域の高齢者等との交流により、若者の世界が広がる。（サロン）高齢者の見守りや困りごとの手助けで喜ばれる。 | フードドライブ利用者へのアンケート。ケースワーカーからの聞き取り。町内会や公民館への聞き取り。参加者・利用者の感想。アンケート。 |

 |
| 助成終了後の展望及び事業継続に関する計画 | 助成終了後の展望・食を通じた農業体験や販売活動を継続して行う結果、地域や仲間とのコミュニケーションが変化し、就労への意識と意欲が高まり、自立へと繋がる。・アート工房やサロンでの交流、ギャラリーでの展示販売により、新たな自分の発見と多様なコミュニケーションが得られ、経済的自立へ向けての希望が生まれる。・受け入れ企業とのネットワークが広がり、困難を抱える若者の雇用の場が生まれる。・フードドライブは性別年齢を問わず、今後必要性は増してくると思われるが、3年後には中心市街地の過疎高齢化はさらに進み、YCスタジオのシェアキッチンは地域のお裾分け・助け合いの拠点となりうる。・様々な理由で就労に困難のある人（シングルマザー、若者、障がい者等）の中間就労の場として、松江市市民活動センター1階の空きレストランを、いくつかの団体とシェアして運営する計画があり、その一翼を当法人が担うことが期待されている。・事業対象を島根県東部から中海圏域（鳥取県西部）に広げることにより、事業が質的にも量的にも拡大し、地域の活性化につながる。事業継続に関する計画・資金の確保：ITを活用して当事者の声を届け、会員の拡大を図る。寄付者の拡大・クラウドファンディングの実施。　　　　　　　宣伝広報を充実させ顧客を拡大し、こだわり市・惣菜・お弁当・アート作品販売事業の増収益を図る。　　　　　　　補助事業の獲得、委託事業の受託を図る。・人材の確保：各機関との連携し相互に人材の紹介と人材の育成を図る。　　　　　　　専門家によるスーパーバイズにより、スタッフの心身の安定とケース相談の質の向上を図る。 |
| 連携を予定している | 連携団体名（正式名称で記入） | 連携(いずれかに○を入れてください) |
| 認定NPO法人　自然再生センター |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 任意団体　音楽＆ものづくりスタジオ |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 松江市教育委員会　松江市青少年支援連絡会 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 社会福祉法人　松江市社会福祉協議会「松江市くらし相談支援センター」 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 社会福祉法人　松江市社会福祉協議会「松江市障がい者サポートステーション」事務局 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 任意団体　子どもの居場所「フリーダス」 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 一般社団法人　島根県社会福祉士会 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 任意団体　Agile　Shimane |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 有限会社　ヤギウラ |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 主な団体 | 個人商店　青山鮮魚店 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 任意団体　島根県中小企業家同友会 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 松江市公民館運営協議会連合会　松江市白潟公民館 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 任意団体　里山笑楽校 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| 飲食店　蓮歩 |  | 新規 | 〇 | 既存 |
| しまね東部若者サポートステーション | 〇 | 新規 |  | 既存 |
| 松江公共職業安定所 | 〇 | 新規 |  | 既存 |
| 合同会社　宮内舎 | 〇 | 新規 |  | 既存 |
| 具体的な事業内容 |

|  |
| --- |
| **柱立て１：共生農業**a）農業活動　　「心を育てる」①目的　　土に触れ作物を育てることにより、傷ついた若者の心身をリフレッシュし心を育てる。②実施する内容自然豊かな共生農場で、無農薬無化学肥料により野菜を栽培する体験活動。　収穫が上がってくれば、こだわり市やキッチン惣事業で利用する。③実施日（期間）　年間を通じて　植え付け・収穫期は集中④実施回数　　週１～2回　　計70回程度⑤実施場所　　松江市八束町（大根島）の農場、雲南市大東町の農場、YCスタジオ中庭の畑　他⑥対象者・数　心身が不安定な状態にある若者・10名程度⑦スタッフ構成　スタッフ1名、農業アドバイザー1名（謝金　計10回）サポートスタッフ1名、ボランティア２名⑧連携団体の役割　　里山笑楽校：　農業体験・農業実習の受け入れ。有）ヤギウラ：　農地の提供、農業実習の受け入れ。　　　　　　認定NPO法人自然再生センター：天神川・中海の藻の提供者の紹介⑨概算費用　　　　　　スタッフアルバイト賃金　600,000円　@1,000×5h×10日×12月×1人　　　　　　アドバイザー謝金　　　　　50,000円　@5,000×10回　　　　　　サポートスタッフアルバイト賃金　240,000円　@800×3h×10日×12月×1人　　　　　　消耗品費　　　　80,000円（農機具、種苗、肥料）　　　　　ｂ）こだわり市　　「仕事体験」①目的心身が安定してきた若者に、農と食に関わる販売という仕事を知り、やってみるという体験の場を提供し、就労への意欲をもってもらう。②実施する内容　松江市近郊の新鮮な無農薬栽培野菜を販売する産直市を開催。（仕事の内容；商品の仕入れ、値付け、陳列、接客）③実施日（期間）　年間を通じて④実施回数　週６日　　　こだわり市の開催　平日　月～金曜　9:30～17:00　　　　　仕入れ・注文　　毎日曜、水曜　週2日　10:00～12:00　週2日　　⑤実施場所　　YCスタジオ玄関前スペース、STICビル等フッリーマーケット会場⑥対象者・数　心身が安定してきた若者　10人程度（見学・体験・中間就労）⑦スタッフ構成　スタッフ1名サポートスタッフ1名、ボランティア1名⑧連携団体の役割里山笑楽校：農産物・農産加工品の提供。認定NPO法人自然再生センター：協力漁業者の紹介。　（有）ヤギウラ：農産物の提供。　合同会社　宮内舎：農産物の提供⑨概算費用　　　　　　サポートスタッフアルバイト賃金　76,800円　@800×2h×4日×12月　　　　　　消耗品費　　　　　　　　30,000円（雑貨、パック等）　　　　　＊中間就労アルバイト賃金　138,240円　@720×2h×4日×12月×2人　　　　　　（＊は、対象外経費）**柱立て２：キッチン惣事業**a）食生活の自律　「生きることを学ぶ　キッチン」①目的食は生きることの基本自らの体に聴きながら自分に必要な食材を選び自分で料理して食べる力を養うことを目的に、マクロビ料理教室で実習しながら、各自昼食を作って食べる。②実施する内容　YCキッチン：調理の練習・食の自律料理教室で実習しながら、自ら作って食べる力をつける。③実施日（期間）年間を通じて　YCキッチン（調理の練習　昼食を自分で作って食べる）：月～金曜日の毎日（祭日を除く）　12:30～13:30　20日/月料理実習：毎週水or木曜日④実施回数　YCキッチン調理の練習　20日/月　　　　　　マクロビ料理教室：月3回　年間36回⑤実施場所　YCスタジオ調理室⑥対象者・数　居場所として利用する若者　15名程度⑦スタッフ構成　サポートスタッフ　１名YCキッチン：ボランティア　１名　　　　マクロビ料理教室：アドバイザー1名（謝金　計36回）⑧連携団体の役割　　　　音楽＆ものづくりスタジオ：利用者の紹介。　　　　子どもの居場所フリーダス：利用者の紹介。　（有）ヤギウラ：食材（農産物・農産加工品）の提供。里山笑楽校：食材（農産物・農産加工品）の提供。合同会社　宮内舎：食材（農産物・農産加工品）の提供。青山鮮魚店：食材（魚貝類）の提供。　　　　飲食店蓮歩：マクロビ料理アドバイザー⑨概算費用　　　　サポートスタッフアルバイト賃金　240,000円　@800×3h×10日×10月×1人　　　　アドバイザー謝金　　　　　180,000円　＠5,000×36回　　　　　　　　　　　　　b）お弁当・お惣菜・乾燥野菜の製造販売　「仕事体験から中間的就労へ」　　①目的働く意欲、仕事への興味が出てきた若者に、農と食に関わる仕事を知る、体験する、働いて対価を得るという就労に向けての実践練習の場を提供する。②実施する内容こだわり市やYC農園で収穫した野菜・魚介等を使い、惣菜・お弁当の製造販売を実施する。こだわり市やYC農園で収穫した野菜を食品乾燥機等で加工し販売する。メニユー研究会：メニューを開発の勉強会③実施日（期間）　月火木金曜日（祭日を除く）　9:０0～13:30　④実施回数　　1８日/月　年間　１７０日程度　　　　　　　メニュー研究会　隔月1回　年間6回（第2or４水曜日）⑤実施場所　　YCスタジオ調理室、Café　sou⑥対象者・数　働く意欲、仕事への興味が出てきた若者　20人　（見学10名、体験見習6名、中間就労4名）⑦スタッフ構成　スタッフ1名、サポートスタッフ１名、アドバイザー1名（謝金　計6回）、ボランティア1名⑧連携団体の役割音楽＆ものづくりスタジオ：利用者の紹介　　　　　　　子どもの居場所フリーダス：利用者の紹介　　　　　　　（有）ヤギウラ：食材（農産物・農産加工品）の提供。里山笑楽校：食材（農産物・農産加工品）の提供。青山鮮魚店：食材（魚貝類）の提供。　　　　　　　松江市青少年支援連絡会：利用者の紹介。　　　　　　　松江市白潟公民館：利用者の紹介。飲食店蓮歩：メニュー研究アドバイザー⑨概算費用　　　　スタッフアルバイト賃金　　2,112,000円　　　@1,100×8h×20日×12月×1人　　　　サポートスタッフアルバイト賃金　1,200,000円　@1,000×5h×20日×12月×1人　　　　アドバイザー謝金　　　　　３0,000円　　＠5,000×6回　　　＊中間就労アルバイト賃金　　518,400円　@720×3h×10日×12月×2人　　　　　（＊は、対象外経費）　　ｃ）フードドライブ　「おすそ分け」①目的　その日の食に窮している人に食事と安心を届ける。②実施する内容　惣菜・弁当事業でその日に余った惣菜お弁当を無料で提供する。キッチン惣のチラシの配布と同時に独り暮らしの高齢者の安否確認を行う。③実施日（期間）土日祝日を除く毎日　14:00～18:00④実施回数　必要に応じて　月20日、年間220日⑤実施場所　YCスタジオ　Café　sou⑥対象者・数　その日の食に窮しているYC利用者（子ども若者）　3～5名程度松江市くらし相談支援センターから紹介のあった一時保護者　　　1～2名/日⑦スタッフ構成　ボランティア1名⑧連携団体の役割　　　　　　　松江市くらし相談支援センター：生活困窮者への紹介　　　　　　　松江市白潟公民館：独り暮らしの高齢者の安否確認。食事をしたかどうかの確認と食事の確保。地域の方への紹介。⑨概算費用（ａ〜c）　　　食材費　　480,000円　（調理実習・フードドライブ）　　　消耗品費　420,000円　（調理器具、衛生用品、雑貨）　　　保険料　　　7,200円　（食品営業賠償保険）**柱立て３：アート＆交流事業**a）アート工房①目的孤立し自信をなくしている若者が音楽や絵画、詩作、手仕事、ダンス等の芸術活動で自己表現する過程で不安を克服し生きる意欲を取り戻す。　②実施する内容　　音楽、絵画、文学、IT、クラフト、手芸、ダンス等の教室を開く。③実施日　　　　平日の午前・午後、土日祭日の午後　２時間程度④実施回数　　　週２回　年間９０回⑤実施場所　　　YCスタジオ２階、STICビル音楽・ものづくりスタジオ⑥対象者・数　　不登校の子ども、困難を抱える若者　　１５名程度⑦スタッフ構成　アドバイザー１名、ボランティア１名　⑧連携団体の役割　子どもの居場所「フリーダス」：参加者の紹介　　　　　　　　　松江市青少年支援連絡会：参加者の紹介。　　音楽＆ものづくりスタジオ：参加者の紹介、場所の提供。⑨概算費用　　　　　　　アドバイザー謝金　　450,000円　　＠5,000×90回　　　　　　b)イートインギャラリー①目的　　地域の方に作品を通じて、若者に対する理解を深める。　　お惣菜・お弁当・コーヒーの売り上げ、作品の販売により、収入を得る。　　Caféスタッフの体験の場となる。②実施する内容　　キッチン惣で購入したお惣菜・お弁当を食する場としてイートインCafé を営業。　　ミニギャラリーとして若者のアート作品を展示する。③実施日（期間）　平日の11:00〜17:00④実施回数　　　年間２００日程度⑤実施場所　　　YCスタジオ/スペーストカトカ⑥対象者・数　　出店者：工房参加者、ひきこもり状態のアート作家　１０名程度　　　　　　　　Caféスタッフ：接客に興味のある若者　３名程度⑦スタッフ構成　　サポートスタッフ１名　　ボランティア１名⑧連携団体の役割　子どもの居場所「フリーダス」：参加者の紹介　　　　　　　　　松江市青少年支援連絡会：参加者の紹介。　　　　　　　　　音楽＆ものづくりスタジオ：参加者の紹介。⑨概算費用　　　　サポートスタッフアルバイト賃金　240,000円　@800×3h×10日×10月×1人　　　　備品購入費　　100,000円　　エアコン１台ｃ）交流サロン①目的　　地域の高齢者、子どもたちとの触れ合うことにより、社会性が豊かになる。　　互いに助け合う関係ができる。②実施する内容　　若者と地域の高齢者・子どもたちと触れ合いサロン（ティータイム）の開催。③実施日（期間）　第２水曜日　午後④実施回数　　月１回　年間１２回程度⑤実施場所　　YCスタジオ２階　和室　⑥対象者・数　　地域の方/８名、若者/１０名程度⑦スタッフ構成　　サポートスタッフ１名　ボランティア１名⑧連携団体の役割　松江市白潟公民館：参加者の紹介　　　　　　　　　松江市くらし相談支援センター：参加者の紹介　　　　　　　　　子どもの居場所「フリーダス」：参加者の紹介　　　　　　　　　松江市青少年支援連絡会：参加者の紹介。　　　　　　　　　音楽＆ものづくりスタジオ：参加者の紹介。⑨概算費用　　　　　　サポートスタッフアルバイト賃金　28,800円　@800×3h×1日×12月×1人**柱立て４：ブリッジング事業**①目的　上記事業で、就労に向けての自信と意欲が出てきた者について、島根県中小企業家同友会等の経済団体に加盟する企業や農家、個人商店、NPO等に繋ぐ。　就労支援機関の利用に繋ぐ。②実施する内容　企業との関係づくり、橋渡しのための仕組みづくりの提案・勉強会から始め、実際の企業内実習・中間的就労・アルバイト雇用から正規雇用へ向かう。　就労支援機関に同行補佐する。③実施日（期間）年間を通じて　随時④実施回数　　　週1～2回程度　　6回/月⑤実施場所　　　YCスタジオ事務所、経済団体事務所、企業・NPO等事務所、就労支援機関⑥対象者・数　　企業経営者・NPO・個人農（漁）家等　年間２0社　若者１０名程度⑦スタッフ構成　ボランティア相談員1名⑧連携団体の役割　　　　　　松江市青少年支援連絡会：各雇用関係機関・企業との関係づくり、企業の紹介、　　　　　　　　　　　　　　　　　　若者の紹介。　　　　　　島根県中小企業家同友会：企業との関係づくりの場の提供。障害者問題全国交流会に参加。　　　　　　島根県社会福祉士会：ソーシャルワークの視点からの助言。「松江市障がい者サポートステーション」事務局：　　　　　　　　　　　　　　　　　障がいのある若者に対する相談窓口。　　　　　　しまね東部若者サポートステーション：就労相談支援。　　　　　　松江公共職業安定所：就労相談支援。⑨概算費用　　　　　旅費　　　48,000円　（相談員交通費）**柱立て５：成果のとりまとめ、普及**a）成果報告書の作成　①作成部数　2000部②配布先　　県・市のネットワーク、NPO・企業等民間ネットワーク、地域の公民館等の関係機関・関係団体（100機関団体）に配布する。⑨概算費用　　　報告書印刷製本費　　20,000円　　@10×2000部b）報告会の開催①目的　　本事業の取り組みを伝え、困難を抱える若者の状況に対する理解と社会参加と就労への協力を求める。②実施する内容　報告書・パワーポイント資料によるプレゼンテーションと質疑応答③実施日（期間）平成30年２～３月④実施回数　４回⑤実施場所　松江市青少年連絡会セミナー（松江市市民活動センター）島根県子ども・若者支援地域協議会（島根県庁）松江市男女共同参画・プリエールフェスティバル市民講座（松江市市民活動センター）島根県中小企業家同友会女性部会セミナー（同友会事務所）⑥対象者・数　　若者支援に関心のある市民、支援に関わる行政の方等50名×４回＝2０0名⑦実施者　　NPO法人YCスタジオ⑧連携団体の役割　　　　　　松江市青少年支援連絡会：報告会の場の提供、広報　　　　　　島根県中小企業家同友会：報告会の場の提供、広報　　　　　　松江市白潟公民館：地域の方への紹介　　　　　　音楽＆ものづくりスタジオ：利用者の方への紹介　　　　　　子どもの居場所フリーダス：利用者の方への紹介⑨概算費用　　　　　　借料損料　　10,000円　（報告会会場費）　@2500×4回ｃ）その他　インターネット等による広報　HP、ブログ上に、報告書を掲載。　Facebook、twitter等のSNSを利用して、随時事業を紹介する。**柱立て６：全事業全期間を通じて発生する経費**⑨概算費用　　事務サポートスタッフアルバイト賃金　76,800円　@800×2h×4日×12月×1人　　家賃　　　　　　　１４８,０８０円　（月極駐車場料金）@12,340×12月　　燃料費　　　　　　　60,000円　（ガソリン代）　　消耗品費　　　　　　50,000円　　（事務用品等）　　保険料　　　　　　　　4,600円　（ボランティア保険）　＠460×10人　　郵便・宅配料　　　　20,000円 |

 |
| ※成果のとりまとめ、普及の方法（該当方法に○を入れてください。複数選択可） |
| 〇 | 報告書等の作成 | 〇 | ＳＮＳ等での発信、団体ホームページ等での公表 |
| 〇 | 成果報告会の開催 |  | その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　） |